

# ふれあい つながり かわら版

## 「ここから」始まる学びの深化・学びの交流 KOKOKARA

令和六年一月二十一日(日)アクリエひめじにて、「令和五年度兵庫県専修学校各種学校連合会高専連携プログラムキャリア形成イベント KOKOKARA 自分たちの味の活かし方を考える一日」が開催されました。

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、専門学校の児童・生徒・学生が校種を越えて、探究的な学びの成果を交流しました。

姫路市立の学校からは、白鷺小中学校前期課程、四郷学院後期課程、飾磨中部中学校、安富中学校、飾磨高等学校の5校が参加しました。他にも、姫路女学院高等学校、家島高等学校、姫路飾西高等学校、専門学校日本工科大学校、姫路福祉保育専門学校が参加し、それぞれの校種の持ち味を生かしたプレゼンテーションを行いました。始めに、進行を務める姫路福祉専門学校の前田真吾校長から参加者に向けて「今日はコンテストではないので、競うわけはありません。上手く発表するというより、自分の思いを聞き手に届けることができたらを意識しましょう。また、発表する側だけでなく、聞く側にもスポットを当てます。みなさんは一歩踏み込んで質問をすることができますか。専門学校では、そこが大切になります。そして、答えを用意していない質問が来て困るといいうのも大切な経験になります。」と会のねらいを力強く発信されました。

その後、「ウエルカムプレゼンテーション」、「ディスカッションタイム」、「プレゼンテーション」、「サンクススピーチ」の4ステップで会が展開されていきましたので、参加者は、自分たちの学びの成果を発表するだけで

姫路市教育委員会  
学校指導課  
小中一貫教育・ICT教育推進係  
(079)221-2120



はなく、異校種間で質問したり、意見を交わしたりと、会を振り返ったりと何度も自分の思いをアウトプットしていました。

### ① ウエルカムプレゼンテーション 〜一番伝えたいことをアピール〜

短い時間で自分たちのプレゼンテーションの見どころを伝えるのは、非常に難しいことです。参加者は、自分たちの探究課題を短い言葉で伝えたり、聞き手が興味をもつようなキーワードを入れたり、それぞれの年代らしさを感じさせる表現で紹介を行いました。また、発表を聞いている側にも、質問を考えるために、真剣に耳を傾けていました。



2分間で自分たちのプレゼンの魅力をアピール

### ② ディスカッションタイム 〜質疑から聞き手の関心を知る〜

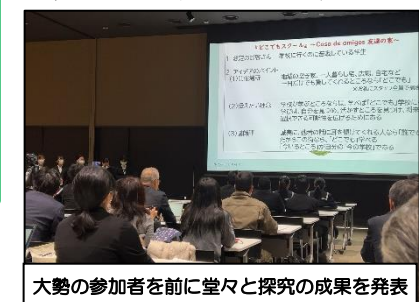
ウエルカムプレゼンテーションで気になった学校の発表者へ直接質問に行く時間です。ここでは、小学生から専門学校の生、参観に来た大人が、入り混じって質問したり、答えたりして交流が行われました。小学生の素朴な質問に専門学校の生が分かりやすく説明する様子や、同じ校種でも他校の取組に興味をもって質問する様子が見られました。



興味を持ったプレゼンに対する質問タイム

### ③ プレゼンテーション 〜校種の持ち味を生かした発表〜

3ステップ目の本発表でした。1、2ステップでウエルカムプレゼンテーションや交流をしているため、どの学校も落ち着いて発表に臨めました。総合的な学習の時間や総合的な探究の時間を通して、「新しい気づき」や「新たな問い」が生まれたこと、「提案するだけでなく、実践・継続することの難しさ」などが、各校から発表されました。



大勢の参加者を前に堂々と探究の成果を発表

### ④ サンクススピーチ 〜ここからどうしたい〜

最後には、各校の代表者による振り返りの時間がありましたので紹介します。

- 自分たちの伝えたいことを大勢に伝えることができた。
- セリフが飛んでしまったり、失敗するという経験ができた。
- 自分の興味のあることを知ってもらえたらうれしかった。
- 想定していない質問に何とか答えなければいけないという部分で自分たちの課題が見えた。
- 他の学校の発表から学ぶことがたくさんあった。
- 小学校から専門学校まで幅広い年代の人と交流する貴重な経験ができた。
- いろんな取組をしている人たちがたくさんいるので、姫路市はもっともっといい街になると思った。
- 振り返りからは、自分が「やりきった」ということだけでなく、「成長した」という気づきが見られました。校種を越えた交流や大勢の前での発表は、自分の持ち味に気づく機会になり、質問に答えられず困るといいう経験は、「ここからどうしたい」という次の問いにつながることも、自ら一歩を踏み出す成長につながったのではないでしょう。